

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 20002

建築物名称	(仮称) 鷺沼PJ新築工事
建築主	大和ハウス工業株式会社 横浜支社 支社長 内山 全浩
建築物の所在地	川崎市宮前区有馬八丁目20番2、20番24
設計者氏名、建築士事務所名	坂野 茂 株式会社ベル建築研究所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,481.54m ²
用途	共同住宅
構造	壁式鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
工事完了年月	令和3年10月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 鷺沼PJ 新築工事	階数	地上3F
建設地	神奈川県川崎市宮前区有馬八丁目20番2、20番24	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域、法第22条区域	平均居住人員	74人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2021年10月 竣工	評価の実施日	2020年04月01日
敷地面積	2,100 m ²	作成者	坂野 茂
建築面積	874 m ²	確認日	2020年04月4日
延床面積	2,482 m ²	確認者	内山 全浩

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 88%
③上記+②以外の 88%
④上記+ 88%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0/4.3	2.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.1
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。 カーテンレール、庇の組み合わせで制御。	1.8/2.3	3.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。 [BEI][BEIm] = 0.77。	4.1/5.0	4.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	LGS使用している。 ODP=0.01未満かつ、GWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が50未満)を用いた断熱材等を使用している。	2.6/4.7	2.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.0
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	3.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	LGS使用している。	2.1/4.0	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	3.0
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。 [BEI][BEIm] = 0.77。	4.1/5.0	4.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。 [BEI][BEIm] = 0.77。	4.1/5.0	4.1

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		基本設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										2.8
Q1 室内環境										3.3
1 音環境										2.7
1.1 室内騒音レベル										0.50
1.2 遮音										0.50
1 開口部遮音性能										0.30
2 界壁遮音性能										0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										0.20
1.3 吸音										-
2 温熱環境										3.1
2.1 室温制御										0.50
1 室温										0.63
2 外皮性能										0.38
3 ゾーン別制御性										-
2.2 湿度制御										0.20
2.3 空調方式										0.30
3 光・視環境										3.6
3.1 昼光利用										0.30
1 昼光率										0.50
2 方位別開口										0.30
3 昼光利用設備										0.20
3.2 グレア対策										0.30
1 昼光制御										1.00
3.3 照度										0.15
3.4 照明制御										0.25
4 空気質環境										3.7
4.1 発生源対策										0.63
1 化学汚染物質										1.00
4.2 換気										0.38
1 換気量										0.33
2 自然換気性能										0.33
3 取り入れ外気への配慮										0.33
4.3 運用管理										-
1 CO ₂ の監視										-
2 喫煙の制御										-

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.6
1 機能性									
					2.7	0.40	2.2	1.00	2.3
1.1 機能性・使いやすさ									
					3.0	0.57	3.0	0.60	
1	広さ・収納性								
2	高度情報通信設備対応						3.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性									
							1.0	0.40	
1	広さ感・景観						1.0	0.50	
2	リフレッシュスペース								
3	内装計画						1.0	0.50	
1.3 維持管理									
					2.5	0.43			
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50			
2	維持管理用機能の確保				2.0	0.50			
2 耐用性・信頼性									
					3.0	0.30			3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振									
					3.0	0.50			
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数									
					3.3	0.30			
1	躯体材料の耐用年数		R		3.0	0.20			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R		2.0	0.20			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R		4.0	0.10			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R		3.0	0.10			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R		5.0	0.20			
6	主要設備機器の更新必要間隔		R		3.0	0.20			
2.4 信頼性									
					2.8	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				2.0	0.20			
3 対応性・更新性									
					3.0	0.30	2.6	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり									
							2.2	0.50	
1	階高のゆとり						3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ						1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり									
							3.0	0.50	
3.3 設備の更新性									
					3.0	1.00			
1	空調配管の更新性				3.0	0.20			
2	給排水管の更新性				3.0	0.20			
3	電気配線の更新性				3.0	0.10			
4	通信配線の更新性				3.0	0.10			
5	設備機器の更新性				3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)									
					—	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出				G	W				
					1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					
					3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮									
					3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									
					3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W				
					3.0	0.50			

LR 建築物の環境負荷低減性																				3.4				
LR1 エネルギー																					4.1			
1 建物外皮の熱負荷抑制				W		H															4.0			
2 自然エネルギー利用				W		H															2.0			
3 設備システムの高効率化				W		H															5.0			
4 効率的運用																					3.0			
集合住宅以外の評価																								
4.1 モニタリング				W		H																		
4.2 運用管理体制				W		H																		
集合住宅の評価																					3.0			
4.1 モニタリング				W		H															3.0			
4.2 運用管理体制				W		H															3.0			
LR2 資源・マテリアル																						2.7		
1 水資源保護				W		R																2.2		
1.1 節水																						1.0		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用																							3.0	
1 雨水利用システム導入の有無																							3.0	
2 雑排水等利用システム導入の有無																								
2 非再生性資源の使用量削減																							2.8	
2.1 材料使用量の削減				W		R																	2.0	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W		R																	3.0	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W		R																	3.0	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W		R																	1.0	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W		R																	2.0	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W		R																	5.0	
3 汚染物質含有材料の使用回避																							3.3	
3.1 有害物質を含まない材料の使用																							3.0	
3.2 フロン・ハロンの回避																							3.5	
1 消火剤				W																			-	
2 発泡剤(断熱材等)				W																			4.0	
3 冷媒				W																			3.0	
LR3 数地外環境																							3.2	
1 地球温暖化への配慮				W																				3.4
2 地域環境への配慮																								2.9
2.1 大気汚染防止																								3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W																			3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制																								2.7
1 雨水排水負荷低減																								3.0
2 汚水処理負荷抑制																								3.0
3 交通負荷抑制																								2.0
4 廃棄物処理負荷抑制																								3.0
3 周辺環境への配慮																								3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止																								3.0
1 騒音																								3.0
2 振動																								-
3 悪臭																								-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制																								3.0
1 風害の抑制																								3.0
2 砂塵の抑制																								2.0
3 日照障害の抑制																								3.0
3.3 光害の抑制																								4.4
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策																								5.0
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策																								3.0